

## 研究プロジェクト「コロナの時間学」趣旨説明

社会に大きな影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染症 COVID-19 に対して、山口大学として、学問の対象として何か取り組むことはできないだろうか？ 新型コロナウイルス、その感染症、そしてその対策は、社会のほぼすべての領域に関係している。そうならば、あらゆる学問に関与する時間を扱う時間学研究所が、この研究プロジェクトを動かすのにふさわしい。

新型コロナウイルス感染症拡大が人間と社会に及ぼすはかり知れない影響を、学問的对象として研究するプロジェクトが山口大学で始まります。分野・学部にかかわらず、ただし「新型コロナウイルス」と「時間」をキーワードとする特色を持った研究プロジェクトです。

分野・学部を問わず、新型コロナウイルスに関連する研究を行います。現状を理解すること、そして新型コロナウイルスが存在する世界で我々はどのように生きればよいのか提言することを目指し、山口大学としてこの問題に取り組めます。

この趣旨をもって 2020 年秋に募集を開始した研究プロジェクト「コロナの時間学」には、19 件もの研究提案が寄せられ、2020 年 11 月 30 日に開催されたキックオフシンポジウムをもって研究を開始した。それから 1 年間にわたって行われた研究の成果が、2021 年 12 月 6, 8, 9 日の 3 日にわたって開催されたシンポジウムにおいて発表された。この成果報告書は、研究の概要を取りまとめたものである。

成果の発表に際し、研究参加者の皆様には次のように提言のお願いをした。

成果報告では、専門分野における研究成果の報告とあわせて、「現状を理解すること、そして新型コロナウイルスが存在する世界で我々はどのように生きればよいのか提言する」という目的を踏まえた、何らかのご提言をお願いしたいと思います。これはご自身の専門分野から多少なりとも外部に踏み出すことになるかもしれませんが、あえて意識的に踏み出していただきたいと願っております。新型コロナウイルス感染症の世界的流行という未曾有の事態に対応するために、山口大学の幅広い専門家の知恵を集結することが期待されており、そのために学問の境界を意識的に超えることが必要であろうと思うからです。

また、新型コロナウイルス感染症にかかわる様々な研究課題を収集・整理した一覧を次項以降に示した。どちらも、広い学問世界を見渡し、その中に自分の研究を位置づけ、他の研究とのかかわり、また社会とのかかわりを意識することを狙ったものである。この研究プロジェクトという試みが学問と社会のために多少なりとも役立つことを願っている。

2021 年 12 月 21 日  
時間学研究所長 藤澤健太

謝辞

本研究プロジェクトにご参加いただいた研究者の皆様に深く御礼を申し上げます。また大学としてこの研究プロジェクトを支援して下さった岡学長をはじめ執行部の皆様に感謝いたします。